



(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月分)

【平成 27 年 3 月】

経済学者の池田信夫氏は、自らのブログで「人類の進化（に関する）…最近の研究では、言語は進化のかなり後の段階で発生したもので、類人猿との根本的な違いは協調性だという。…これが言語と結びつく…思考力は、進化の最も遅い時期に備わったので、発現するのは 3 歳ごろだ」と述べられています。

また、ある教育関係者からは、小学校 4 年生頃からの抽象的思考を準備するのは、幼児期の絵本の読み聞かせが大切である旨のことをお聞きしました。

学力京都府一を目指すための第一歩は、家庭でお子様に絵本の読み聞かせをすることであると思っています。そこで、今回の政府の緊急経済対策を活用して、就学前のお子様に絵本をプレゼントする「親子で絵本事業」を実施することといたしました。

是非、保護者やご家族の肉声で、愛情とともにお子さんに絵本を読んであげてください。

【平成 27 年 2 月】

本年は、戦後 70 年に当たります。そして、阪神・淡路大震災から 20 年が経ちました。

先日、多くの市民の皆さんの参加の下、京都大学防災研究所巨大災害研究センター長の林春男教授を講師に防災講演会を開催いたしました。

気候変動と気象変動、地震などの災害に負けない社会づくりなどについて、主として事業継続能力の向上という視点から、多重防御、そして復興対応などについてご講演いただきました。

その中で、行政がすべて対応することはできないので、優先順位をつけ、限られたお金のなかでいつするののかも考える必要があることをも示されました。

* * *

追伸 1月 27 日、京都府から第一回地球温暖化対策排出量削減優良事業者表彰を受賞しました。この表彰を励みとして、今後も職員とともに頑張っていきたいと存じます。

【平成 26 年 12 月】

まちの将来を考えるには、まず人口の動きの把握が必要です。本市の人口が、30 年後には 6 万 1 千人との予測もある中で、人口減少を少しでもなだらかにする方策に取り組まなければなりません。

この取り組みを加速化するために、先月、京都府の新たな施策「まちの公共員」を配置していただきました。

比較的自由に活動できる半公半民の立場で、男山中央センターの「だんだんテラス」を中心に、地域に根ざしたまちおこしの担い手として、地域コミュニティの緊密なネットワークづくりなど課題解決に力を貸していただきます。大いに期待している反面、まちおこしの調整役は本来、市の職員ではというジレンマもあります。

市民の皆様と共に考え、これからの八幡市を作っていきたいと思っています。

よろしく申し上げます。

【平成 26 年 11 月】

先月、「都市と新たなコミュニティ」というテーマでお話を聞く機会がありました。

その中で、阪神・淡路大震災の災害支援において、行政が救助できたのは、全体の 2 割程度で、残りは地域の皆さんによる救助であり、「自助」「共助」の果たす役割は非常に重要である旨が述べられていました。

そのためには、自治組織の役割がキーとなる訳ですが、加入率が全国的に低下しています。

本市では横バイではありますが、組織化されていない地域もあります。

災害への対応を含めた安心・安全のまちづくりに取り組んでいますが、被害を少なくするというダメージコントロールがどれだけできるかがポイントだと思っています。

市民の皆様もお互いの安全のためにも、地域での“つながり”を大切にさせていただきますようお願いいたします。

【平成 26 年 10 月】

市民の方から、「市役所の職員が多いのでは？」とのご意見をいただきました。

本市では行財政改革の一環として、職員定数をピーク時の 715 人から 599 人と 116 人削減しました。

一方で、国や府からの権限移譲による事務の拡大や少子・高齢化対策など、新たな課題に対応するため臨時職員等は増えています。人口減少時代を迎え、適正な職員数については、常に頭を痛める問題です。

また、人口急増時に採用した職員の大量退職により職員の世代交代が進んでいます。知識・技術・経験を継承するには一朝一夕ではできません。さらには、災害時の体制をどうするのかの視点も大切です。

それらを踏まえ、市民協働と市民ニーズに対する対応能力を低下させない組織づくりを目指します。

【平成 26 年 9 月】

「平成 26 年 8 月豪雨」で被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を祈念いたしております。

8 月に上陸した台風 11 号や集中豪雨は、各地で大きな爪痕を残しています。幸いにも八幡市では大きな被害に見舞われなかったものの、やはり農作物や各家庭での対応にはご苦労されたことと思います。

近年「記録的」と表現されるような気象現象が発生していますが、いずれにしても、普段からの備えと初期対応が大切だと考えています。

過去 10 年、近畿地方への台風の接近が最も多いのが 9 月です。災害から市民の皆さまの生命と財産を守り、安心して暮らせる安全なまちづくりに努めておりますが、もしものときは、必ず「命」を優先した行動をお願いします。

【平成 26 年 8 月】

日本が独立を回復したのが、昭和 27 年（1952 年）4 月。私も同年 2 月生まれですので、独立後の日本と同様、63 回目の夏を迎えます。

60 年余の経験から、物事を判断する際、自己を相対化する視点が大切であると考えています。

今年の前半は、特に憲法解釈を巡って議論がなされました。

日本と同様に第一次世界大戦後のアメリカでは平和思想が大きな社会勢力となっていたこと、大日本帝国憲法も日本国憲法に改正されるまでは、両者とも一度も改正されていないことの意味、更には戦後の西ドイツの再軍備が遅れたのは集団的自衛権のみ認めることを条件とすることに時間を要したこと等々があまり語られていないと感じました。

暑い夏ですが、頭を冷やして、憲法の前文にある「われらは、…国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」こととは何かを考えるのが、実りある議論へのキーになるのではと思っています。

【平成 26 年 7 月】

先日、エベレスト登頂者の最高齢の記録を 80 歳に塗りかえられた、三浦雄一郎氏のお話を聞く機会に恵まれました。

氏は、健康法には、健康的に老いる「消極的」健康法と、目標に向かって体力をつける「積極的」健康法があるのではないかと話されていました。

今月から、健康づくりへの取り組みとして「健康マイレージ事業」がスタートします。多くの皆様に参加いただき、健康づくりのきっかけとしてください。

そして、できれば皆様自身が目標を設定して「積極的」健康へとトライしてください。

皆様の健「幸」を願っています。

【平成 26 年 6 月】

ここ数年、全国的に集中豪雨による被害が続いています。八幡市でも被害を受けました。

昨年の大雨特別警報発令時、木津川では、排水ポンプを止めなければならない水位にあと少しのところとなり、既存の治水システムで、かろうじてしのげたという状況でした。

これから梅雨入り、台風シーズンを迎えます。水防訓練などで豪雨に対する備えをするとともに、対策に努めていますが、万全とはいえません。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われますが、最近は忘れる暇なくやってきます。市民の皆様には、自助、共助の視点も踏まえ、今一度ご家庭や周辺の危険箇所などのチェックを、万一来るに備え、していただきますようお願いいたします。

【平成 26 年 5 月】

4 月 6 日、「大安心・大交流の時代を築く」を公約に掲げ、山田啓二京都府知事が四選を果たされました。

市長に就任以来、京都府と力を合わせながら、第 4 次八幡市総合計画の実現に向けて取り組みを進めてきました。

今後も人口減少時代に対応するため、市民の皆さまが「大安心」して、「大交流」できる生き生きしたまちづくりに向け、市だけでは成し得ない課題の解決に引き続き知事と協力してまいります。

市民の皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

* * *

追伸 昨年に引き続き、今年も背割堤の桜のトンネルが、関西人気お花見スポットランキングで一位となりました。市民の皆様、桜は堪能されましたか。

【平成 26 年 4 月】

桜の咲く季節を迎え、平成 26 年度が始まりました。

多くの職員が退職し、世代交代が続く中、私の公約であります市民と協働したまちづくりを進めていかなければなりません。

「先ず隗（かい）より始めよ」という言葉があります。物事は言い出した者から始めよというたとえです。

市民の皆さま、市議会議員の皆さまのご意見を踏まえながら、先ずは私自身が更に勉強し、職員とともに施策達成に向け、歩みを進める所存です。

間もなく、背割堤の桜が満開になります。先ずは、背割堤の桜を愛で、自らの学びを深め、施策を実行してまいりますので、皆さまのご協力の程お願いします。